

2017年度 さくらっこ保育園事業報告

(1) 保育の理念、方針、目標

- ①保育理念：「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛しなさい」という聖書のことばをモットーとし、神様に愛されていることを感じられる環境の中で、違いを豊かさとして受けとめられるこどもを育てる。
- ②保育方針：神様に与えられた一人ひとりの子どもの個性を大切にする。
子ども・保護者の持つ文化を大切にする。
互いの違いを豊かさとして受けとめられる環境づくりに努める。
友だちを大切にする仲間づくりをする。
- ③保育目標：しなやかなからだづくり。
意欲のある子ども。
思いやりのある子ども。
自然と平和を愛する子ども。

(2) 定員並びに在籍数の推移（定員12名）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
0歳児	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
1歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
2歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
月計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144

(3) 保育時間

7：00～20：00（18：00～20：00は延長保育）

(4) 職員体制

園長：1名 保育士：4名（うち1名主任） 栄養士：1名 非常勤職員：3名
嘱託医：小児科；高良憲光（高良医院）、歯科；佐々木矩雄（佐々木歯科）

(5) 保護者の自主活動

さくらっこ保育園には組織としての保護者会はないが、クリスマス会を保護者主催で実施した。卒園の集いでも多くの協力があった。開設時に0歳児で入園した保護者が3年間の記録をスライド作成し、寄贈してくれたことは感謝にたえない。

4年目を迎え、卒園児時保護者同窓会が予定されている。支援していきたい。

(6) 設備等の整備状況

3年目を迎え、畳部屋の入り口に柵を設置した。新年度に0歳児の場所づくりを念頭に作ってもらった。脇からよじ登る園児に、成長の証を見ることができた。

(7) 経営・運営状況

さくらっこ保育園は小規模保育事業 B 型に分類されている。法令上の加算はさほど多くはないが、通常であれば十分運営可能な年間予算になっている。ただし、園長を筆頭に高い給与水準の職員が多く、人件費比率が高いことがやや危惧される点になっている。年度末に園長の定年退職を機にいくらか解消されるものとする。

なお、職員の絶対数が少ないため、研修にはあまり参加することができなかったが、次年度は工夫しながら少しずつでも参加できるようにする。

次年度から新園長のもと、桜本保育園からの異動職員に加え常勤職をもう1名増員し安定した保育体制を築きたい。

(8) 卒園の集い及び新年度の入所状況

去る3月24日に第3回卒園の集いを実施し、5名の卒園児を無事に送り出すことができた。5名はそれぞれ近隣の認可保育園3歳児クラスに編入した。(桜本保育園へは1名が転園)6名の進級児に6名の新入园児を加え、4年目も総数で定員通りの入所となっている。(年齢別:0歳3名、1歳3名、2歳6名)中途退園1名。

(9) 小規模保育事業の現状と展望(3年間総括として)

2014年の夏、小規模保育事業に名乗りを上げ審査も通り秋に開園が決定した。設計と改修工事を何とか開園前に終了して、2015年4月1日に無事開園することができた。職員は全員が桜本保育園からの異動で、桜本保育園は非常に大変だったがさくらっこ保育園は、まずまず順調なスタートを切ることができた。

1969年の桜本保育園開園以降初の姉妹園であり、形態も初の小規模保育事業であり緊張感を併せ持つての保育開始であったことを覚えている。3世代同居型の混合保育や保育基準が認可保育所と全く同じ水準という、ハードルの高さに驚きもしたが、園児やその保護者に恵まれ、この3年間を過ごせたことは大きな喜びであった。

今後しばらくは、小規模保育事業の需要が続くものと考えられる。小規模の特性を連携園にどう還元していくか、職員交流をどのように図っていくか、経営基盤の小さい小規模保育事業をどう支えていくかなどの課題も見えてくる。

駅近という特性、多文化の視点、区役所との連携など力を入れるべき点は多々あるし、未開の可能性がとても高いのが、さくらっこ保育園であるといえる。4年目を迎えるさくらっこ保育園に大いに期待し、具体的支援と運営基盤の強化を推進したい。(前園長 南宮成根)